

薬剤部 DI ニュース

★褥瘡治療における外用薬などの選び方について★

Q1 急性期褥瘡と慢性期褥瘡では、薬の使用はどのように異なりますか？

- A1. **急性期** 湿潤環境を保ち、創面を保護することが基本とされるため、アズノール軟膏などが使用されます。また感染を合併する場合はゲーベンクリームが選択されます。
- 慢性期 浅い褥瘡** 創面保護を目的として皮膚欠損用創傷被覆材が第一選択ですが、白色ワセリンを基剤としたアズノール軟膏が使用されることがあります。また、びらん、浅い褥瘡にはプロスタンディン軟膏のような上皮形成促進作用を有する薬剤が用いられます。
- 慢性期 深い褥瘡** 深い褥瘡では治療経過とともに局所の病態が大きく変化するため「科学的根拠に基づく褥瘡局所ガイドライン」のDESIGN分類を用いて評価しながら治療を行っていきます。その際DESIGNの「深さ(D)」以外の項目に注目し局所治療についてはWBP(創傷環境調整)と湿潤環境を考慮しながら薬剤などの選択をします。

表 1. DESIGN

・深さ(Depth) 創の内部が一番深いところで判定 D…皮下組織を越えた損傷 d…真皮までの損傷	・炎症/感染 (Inflammation/Infection) I…感染の徴候あり i…感染の徴候なし
・浸出液(Exudate) ドレッシング交換の回数で判定 E…1日2回以上の交換 e…1日1回以下の交換	・肉芽組織 (Granulation tissue) 良性的肉芽の割合を測定 G…50%未満 g…50%以上
・大きさ(Size) 褥瘡の損傷部の長径(cm)と短径(cm)を測り、それぞれをかけたもの(面積ではない) S…100以上 s…100未満	・壊死組織(Necrotic tissue) N…壊死組織あり n…壊死組織なし

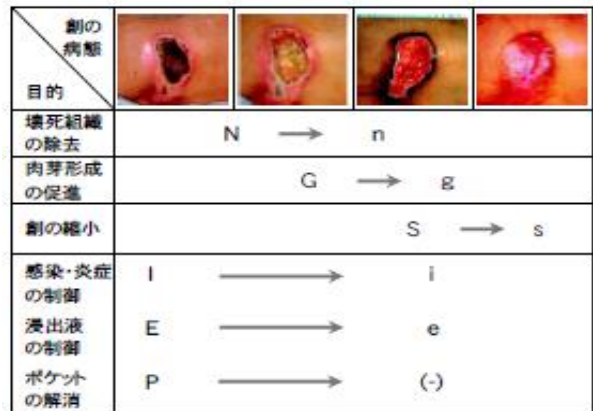


図 2. 慢性期の深い褥瘡における基本スキーム

※大文字:重症、小文字:軽症

Q2 当センター採用薬で褥瘡治療に用いられる薬剤にはどのようなものがありますか？

A2. 褥瘡治療に用いられる外用薬や皮膚欠損用創傷被覆剤を簡略にまとめました。

DESIGN分類	一般名	商品名	滲出液に対する使用		備考
			多い	少ない	
主にE・I・Nを目的とする	スルファジアジン銀	ゲーベンクリーム	不適		
	プロメライン	プロメライン軟膏		効果減弱	ゲーベンとの併用で効果減弱
	精製白糖・ポピドンヨード	ユーパスタコーワ軟膏	適する	治癒遅延	
主にE・I・G・Sを目的とする	ハイドロファイバー(銀含有)	アクアセルAg			
主にE・G・Sを目的とする	アルギン酸塩	カルトスタット			
主にG・Sを目的とする	トラフェルミン	フィブラストスプレー			随時購入
	アルプロスタジルアルファデクス	プロスタンディン軟膏	不適		
	ハイドロコロイド	デュオアクティブET デュオアクティブCGF	不適		
主にN・Sを目的とする	ハイドロジェル	グラニュゲル			
その他	ジメチルイソプロピル(アズレン)	アズノール軟膏	不適		